

## 原 著

# 魚沼病院における糖尿病療養指導士制度に対する認知度調査

魚沼病院、薬剤部；薬剤師<sup>1)</sup>、看護部；看護師<sup>2)</sup>、栄養科；管理栄養士<sup>3)</sup>

丸山 歩<sup>1)</sup>、瀧澤 華織<sup>2)</sup>、杉本 朋子<sup>2)</sup>、森平美代子<sup>1)</sup>、小森 桂子<sup>3)</sup>

目的：魚沼病院は日本糖尿病学会専門医のいない施設だが、転勤により日本糖尿病療養指導士（CDE-J）が5名勤務体制となったことから、CDE-Jの存在を知ってもらい療養指導の充実および資格取得者を増やす目的で認知度調査を行った。

方法：2007年8月に常勤医師とCDE-Jの受験資格のある職種を対象とし自己記入方式のアンケートを実施した。

結果および結論：回答率は医師100%、コメディカル99.1%。CDE-Jの資格は8割が知っているが取得条件を6割の職員が知らなかった。CDE-J（Japan Certified Diabetes Educator）は療養指導に役立つと9割の職員が回答し、医師だけでは指導に限界がある、専門的な正しい知識が必要である、患者の信頼の目安になるなどの理由が挙げられた。また、ほとんどの職員が資格者を増やすべきと回答しており、資格取得方法の情報を広め、実際の知識活用や指導改善を図ることで、チーム医療の充足や資格取得者の増加につながると思われた。

キーワード：糖尿病療養指導士、資格取得、療養指導の充実

## 緒 言

魚沼病院は日本糖尿病学会専門医のいない施設であるが、やはり国民の5人に1人が糖尿病かその予備軍という現代社会を反映しており、合併症の発症・進行の危険性のある糖尿病患者が毎月のべ180人前後受診している。厚生連では職員の転勤があるため、2007年度には日本糖尿病療養指導士（Japan Certified Diabetes Educator：以下CDE-J）が5名勤務することになった。そこでCDE-Jの存在を知ってもらい療養指導の充実および資格取得者を増やす目的で認知度調査を行った。

## 対象および方法

当院常勤の医師11名とCDE-Jの受験資格のあるコメディカル110名（看護師94名・薬剤師6名・臨床検査技師5名、理学療法士3名・管理栄養士2名）を対象とし、2007年8月1日～16日に自己記入式のアンケート調査を実施した。内容は医師用設問数9問、コメディカル用設問数11問とした（図1.2）。

## 結果および考察

回答者数および回答率は医師11名・100%、コメディカル109名・99.1%であった。

- まず医師の回答状況を述べる；問1：CDE-Jという資格を知っているか？では、4割しか知られておらず、問2：CDE-J取得条件については、8割が知らなかった。問3：CDE-Jは療養指導に役立つか？には8割が役立つと回答し、その理由として罹患者の激増、動機付け困難かつ病識欠如例が多い、外来診療の枠では病態の説明や生活指導が困難、医師の負担軽減が上げられた。問4：魚沼病院にCDE-J資格取得者が勤務していることを知っていたか？には、8割が知らないと回答したが、問5：今後CDE-Jを活用したいか？には、9割が活用したいとあり、特に患者指導に希望が多かった。問6：今までの患者指導はどのように行っていたか？には、自分で指導していた項目として、糖尿病の合併症、関連する検査値や血糖コントロールの目標、糖尿病に関する病識全般の順にあげられた（図1）。一方で特に指導していない項目として、フットケア等のセルフケア、Sick Day対策、薬物療法、運動療法、血糖自己測定の前順にあげられた（図2）。これらは看護師や薬剤師・理学療法士のフォローが必要であることからチーム医療の重要性があらためて認識できた。問7：CDE-J活用の利益については、患者指導の充実が第一にあげられ、問8：CDE-JやLCDE（新潟県地域糖尿病療養指導士：Local Certified Diabetes Educator）の有資格者を増やすことについては、9割が必要と回答した。問9：CDE-JやLCDEへの意見要望では、資格取得の偏りを懸念する声や医師以外の職種への不信も根強いと思わせる意見もあり、やはり患者への指導実績を積んでいかなければ評価されにくいこともわかった。
- 次にコメディカルの回答状況を述べる；問1：CDE-Jという資格を知っているか？では、8割が知っていると回答したが、問2：CDE-J取得条件については、6割が知らなかった。問3：CDE-Jは療養指導に役立つか？には9割が役立つと回答し、その理由として医師だけでは指導に限界がある、糖尿病は合併症を含め広範囲な分野の患者が対象になるため専門的に正しい知識が必要、資格は知識量や指導力の目安になるので患者の信用や安心につながるなどが上げられた。問4：魚沼病院にCDE-J資格取得者が勤務していることを知っていたか？には、6割が知っていると回答し、問5：今後CDE-Jを活用したいか？には、9割が活用したいとあった。

患者指導に希望が多かったが、医療従事者のレベルアップやチーム医療の取り組みにも期待が寄せられていることもわかり、積極的な活動を開始する必要性を痛感した(図3)。患者指導に希望することとして、糖尿病に関する病識全般、薬物療法、食事療法、血糖コントロールに関することというように、まさにチーム医療でフォローしあうべき内容になっていた(図4)。資格取得方法の情報を広め、実際の知識活用や指導改善を図ることで、チーム医療の充足や資格取得者の増加につながると思われた。問6：今までの患者指導はどのように行っていたか?には、自分で指導していた項目として、看護師の回答者数が多いことからインスリン注射の手技、血糖自己測定と手技指導があげられ、それに伴う低血糖の症状・起きやすい時間・対処と続いた(図5)。一方で特に指導していない項目として、フットケア等のセルフケア、Sickr Day 対策、運動療法と、セルフケア能力を上げる為の指導が不足していることが浮き彫りになった(図6)。問7：CDE-J活用の利益については、患者指導の充実、医療スタッフの知識や技術の向上があげられ(図7)、患者指導のフォローへの期待に答えられ指導不足内容の補填が出来れば、CDE-Jの活用の利益が実際に評価されると思われた。問8：CDE-JやLCDEの有資格者を増やすことについては、9割が必要と回答した(図8)。問9：LCDEの資格取得および問10：CDE-Jの資格取得については、6割が取得を検討したいと回答があった(図9、図10)。問11：CDE-JやLCDEへの意見要望では、積極的に患者指導に関わってほしい、チーム医療として定期的に活動を始めてほしい、資格は患者さんが病院を選ぶ時の目安のひとつになる、資格取得のみで終わらず患者の為になる資格を生かした活動を考えるべきなどがあげられた。

これらの結果から CDE-J・LCDE の資格取得方法を知ってもらい、その知識の活用や今までの指導不足を改善することで、チーム医療の立ち上げや資格取得者

の増加につなげることができると思われる。実際このアンケート調査後、2008年4月から新たに3名のCDE-Jが誕生した。今後、CDE-Jの活動がどんな変化をもたらせたのか評価したいと考える。

## 英文抄録

### Original Article

Investigation of visibility of Japan Certified Diabetes Educator (CDE-J) in Uonuma Hospital

Uonuma Hospital, Pharmaceutical department; Pharmacist<sup>1)</sup>, Nursing department; Nurse<sup>2)</sup>, Nouritional department; registered dietitian<sup>3)</sup>

Ayumi Maruyama<sup>1)</sup>, Kori Takizawa<sup>2)</sup>, Tomoko Sugimoto<sup>2)</sup>, Miyoko Moridaira<sup>1)</sup>, Keiko Komori<sup>3)</sup>

**Objective :** There were five CDE-J's in spite of no medical specialist of diabetes mellitus. We investigated the visibility of CDE-J's among our hospital staffs to increase CDE-J.

**Study design :** We carried out the self-completed questionnaire to our physicians and staffs of qualification for CDE-J examination in August, 2007.

**Results and Conclusion :** We got answers more than 99.1%. Ones of 80% knew the qualification of CDE-J, but the staff of 60% did not know its acquisition qualification. 90% of staffs regarded CDE-J as useful for patients. Understanding a significance of CDE-J was very important to increase CDE-J for a satisfaction of the team therapy.

**Key Words :** Japan Certified Diabetes Educator (CDE-J), qualification, improvement of medical treatment guidance

図1-1

アンケート調査のお願い

生活習慣病やメタリックシンドロームという言葉がメディアを賑わせ、医療費問題も加わって40歳以上の6人に1人が糖尿病かその予備軍という現代社会において、糖尿病対策は国家的規模で受け止めていかなければならない時代となりました。

一方、地方における糖尿病専門医不足も深刻化しているため、今後コメディカルからのサポートを期待するはますます高まっていくと思われます。その声に応えるために、私たち医療従事者はそれぞれの職種の特長を活かし、チームを組んで今後の糖尿病対策に貢献していかなければならないと考えます。

その趣旨のもと、日本糖尿病産業指導士という資格が平成12年度に発足し、現在約1万人の日本糖尿病産業指導士が、さらなる糖尿病の知識・技能・態度の修得に励んでいます。

**今回は、この「糖尿病産業指導士」という資格に関する認知度調査を、日頃糖尿病患者さんにかかわっている医療スタッフの方々を実施させていただきます。お願い申し上げます。**

おたじことと思いますが9月16日までに記入下さい。  
ご記入が終わりましたら、お手紙でも薬剤部「片桐」か内科外来「瀧澤」までお返し下さい  
ご連絡いただければ、回収にかけます。よろしくお願ひいたします。

回答者	
年齢	20代 30代 40代 50代 60代
職種	看護師、管理栄養士、薬剤師 臨床検査技師、理学療法士
当院の糖尿病患者の割合 (印象)	( ) %程度

問1 日本糖尿病産業指導士(Japan Certified Diabetes Educator : 以下CDE-J)という資格があることをご存知でしたか？

- a : 知っている。
- b : 知らない。

問2 CDE-J の資格を取得(受験)できる医療従事者には、どのような条件がもうけられているかご存知ですか？

- a : 知っている。
- b : 一部の項目のみ知っている
- c : 知らない。

問3 CDE-J の資格取得の条件は以下の通りですが、糖尿病が爆発的に増加している時代をむかえ、日々の診療や療養指導に役立つ資格と思いませんか？ またその理由があれば教えてください。

日本糖尿病産業指導士とは、糖尿病とその療養指導全般に関する正しい知識を有し、医師の指示の下で患者に継続した療養指導を行うことのできる医療従事者に対し、日本糖尿病産業指導士認定機構が与える資格である。

1. 看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士のいずれかの資格を有していること
2. 下記の①②③の条件を全て満たしている医療施設において、現在または過去10年以内に2年以上継続して糖尿病患者の療養指導業務に従事した方で、かつこの間に「糖尿病1000時間以上療養指導者の教育研修」に受講すること
- ①当該施設に勤務する、以下の(イ)~(ロ)のいずれかに該当する医師が、糖尿病産業指導にあたり受検者を指導していること  
(イ)受検者または受検者の日本糖尿病学会専門医(非常勤の場合、勤務は月1回以上)
- ②日本糖尿病学会の委員で糖尿病の診療と療養指導に従事している専勤の医師
- ③糖尿病の患者教育、食事指導に協力していること
3. 受検者となる「糖尿病産業指導業務」に従事した期間に当該施設で働いた糖尿病産業指導の自験者が10人以上あること
4. 本機構が開催する講習会を受講し、受講終了証を取得していること

- a : 役立つと思う。(理由 )
- b : 役立つとは思わない。(理由 )

問4 今のところ魚沼病院では上記の条件を満たしていないという理由でCDE-Jの資格取得のための受験者がいなくてもしたが、他の病院でCDE-J資格を取った職員が魚沼病院に転勤してきて勤務していることをご存知でしたか？

- a : 知っている。
- b : 一部の人の知っている。
- c : 知らない。

図1-2

問5 今後、糖尿病産業指導のためにCDE-Jに相談しよう、あるいは活用してみようと思いませんか？ また、それとはどのような時ですか？ (複数回答可)

魚沼病院のCDE-J資格取得者			
看護師	管理栄養士	杉本 翔子	
薬剤師	片桐 伊	倉本 真代子	
管理栄養士	小森 結子		

- a : 相談したり活用したりしてみました。
- 1: 患者指導 7: 糖尿病に関する病歴全般 8: 食事療法全般
  - 2: 糖尿病の合併症 9: 食品交換法の使い方
  - 3: 関連する検査項目や血糖コントロール目標 10: 糖尿病性腎症時の食事療法
  - 4: 血糖自己測定 11: 運動療法全般
  - 5: オキシリン注射の手法 12: 経口薬の作用の違い
  - 6: 外来でのインスリン導入 13: インスリンの作用の違い
  - 7: 低血糖の症状・置きやすい時間・対処 14: Sick Day 対策
  - 8: フットケア等のセルフケアの方法 15: 糖尿病教室の開催
- 2: 患者さんの病歴が変化したときに何を把握したらよいかわかる時  
3: 医師の指示(食事・運動)が不明など「何進んでいいかわからない」時  
4: 入院時と外来時での連携やチーム医療の取り組み  
5: 魚沼病院スタッフ(医療従事者)のレベルアップのための教育  
6: その他( )
- b : 相談や活用する気はない。

問6 今までの糖尿病患者への指導はどのようにされてきましたか。あてはまるところに○を記入してください

	自分で	ハットシ	医師に	看護師に	薬剤師に	管理栄養士に	その他
	指導	の依頼	依頼する	依頼する	依頼する	依頼する	依頼する
糖尿病に関する病歴全般							
糖尿病の合併症							
関連する検査項目や血糖コントロール目標							
血糖自己測定							
フットケア等のセルフケアの方法							
食事療法全般							
運動療法全般							
薬物療法全般							
インスリン注射の手法							
低血糖の症状・置きやすい時間・対処							
Sick Day 対策							

- 問7 CDE-J の活用はどのような利益があると思いませんか？
- a : 患者指導の充実。
  - b : 合併症発生の予防、進行防止などの病状コントロールが容易になる。
  - c : 医療スタッフの知識や技術の向上。
  - d : 治療方針の策定。
  - e : 資格の取得向上や経営改善。
  - f : その他( )

問8 糖尿病学会会員である内科・岩本先生より御指導いただければCDE-Jの受験資格も得られるとともに、今年度から、新潟県地域糖尿病産業指導士(Local Certified Diabetes Educator : 以下LCDE)の資格制度も始まります。CDE-J、LCDEいずれも魚沼病院の医療従事者に受験資格がありますが、資格を増やして必要があると思いませんか？

- a : CDE-J、LCDEいずれかでも出来るだけ多くの医療従事者に必要な資格だと思う。
- b : CDE-J、LCDEいずれかでも内科などの糖尿病に関わる一部の医療従事者に必要な資格だと思う。
- c : 必要だと思わない。

問9 コメディカルの方のみへの質問です。LCDEの資格を取得したいと思いませんか？ (受験資格の一部である「受験資格認定のための講習会」に参加する必要があります。)

- a : 取得するつもりで今年度の講習会に申し込みました。
- b : 取得するつもりですが今年度の講習会には申し込みませんでした。
- c : 今回のアンケートで得た情報なので、来年以降に取得したい。
- d : 糖尿病患者に携わるようになったら取得したい。
- e : 取得しようとは思わない。

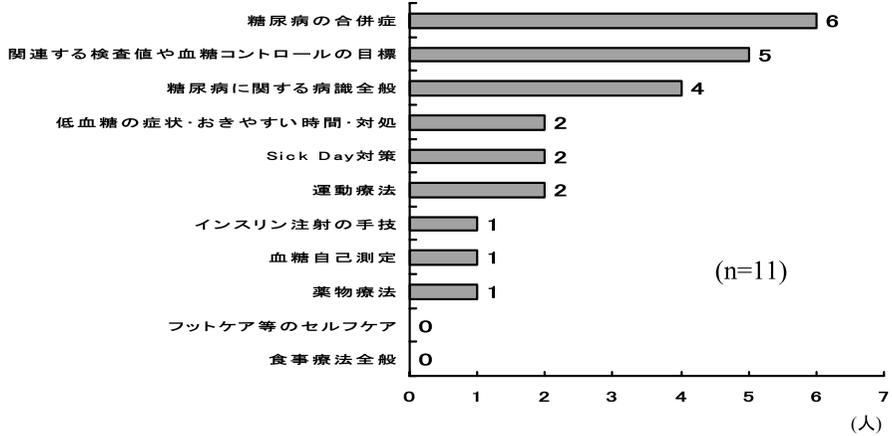
問10 コメディカルの方のみへの質問です。糖尿病学会会員である内科・岩本先生より御指導いただければCDE-Jの受験資格も得られます。CDE-Jの資格を取得したいと思いませんか？ ~コメディカルの方への質問

- a : 岩本先生から指導してもらい、出来るだけ早期に取得したい。
- b : 糖尿病患者に携わるようになったら取得したい。
- c : 取得しようとは思わない。

問11 CDE-J およびLCDEへのご意見・ご要望がございましたら、お知らせ下さい。

以上、ご協力ありがとうございました。

### 自分で指導

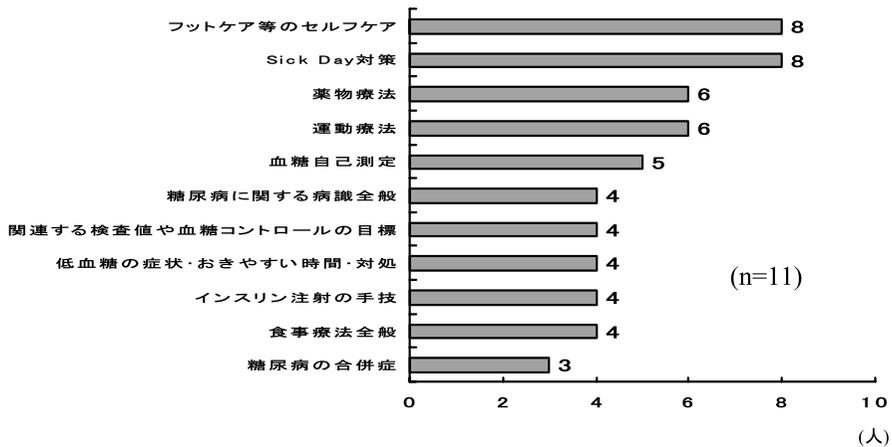


#### 回答状況(医師)

問: 今までの糖尿病患者への指導はどのようにされて  
いましたか。(複数回答)

図2

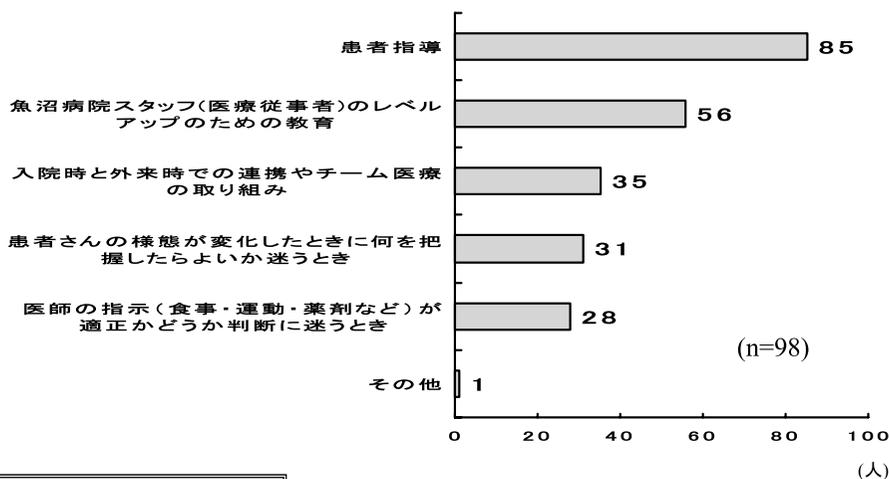
### 特に指導していない



#### 回答状況(医師)

問: 今までの糖尿病患者への指導はどのようにされて  
いましたか。(複数回答)

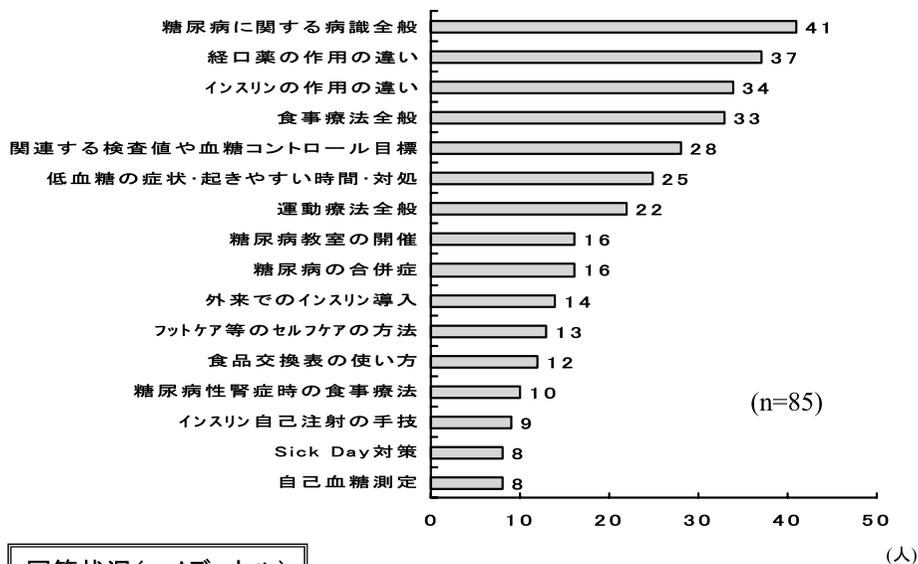
図3



回答状況(コメディカル)

問: 今後、糖尿病療養指導のためにCDE-Jに相談しよう、あるいは活用してみようと思いますか？  
また、それはどのような時ですか？ (複数回答)

図4

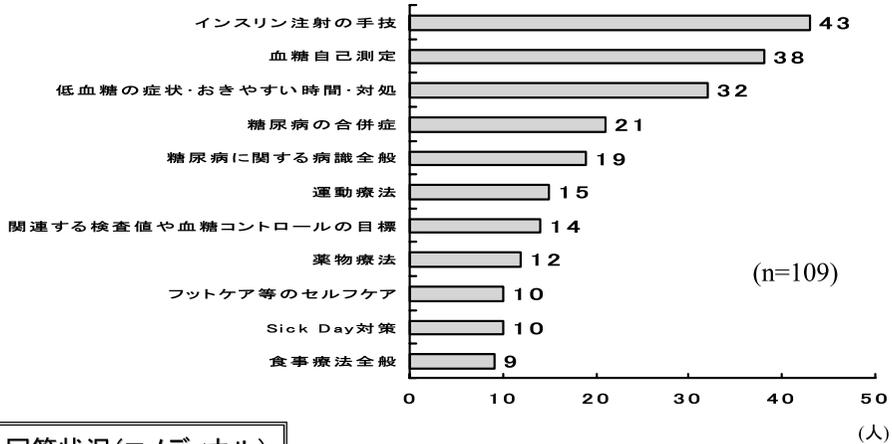


回答状況(コメディカル)

問: 患者指導に関する相談希望内容 (複数回答)

図5

### 自分で指導

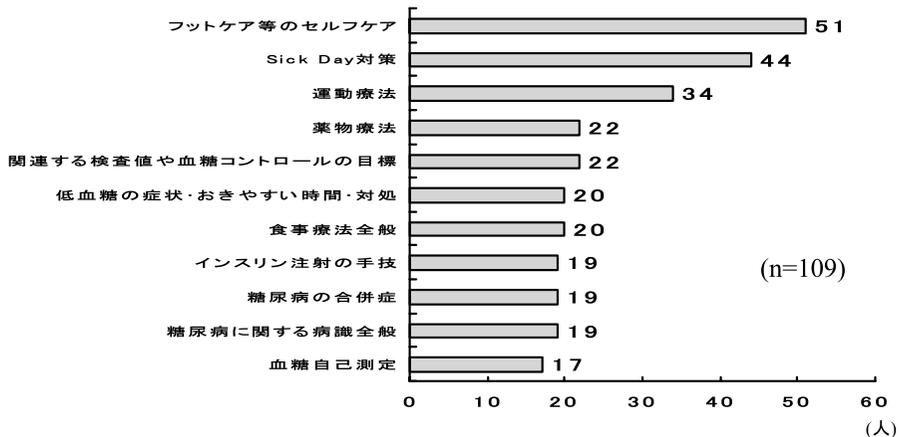


回答状況(コメディカル)

問: 今までの糖尿病患者への指導はどのようにされて  
いましたか。(複数回答)

図6

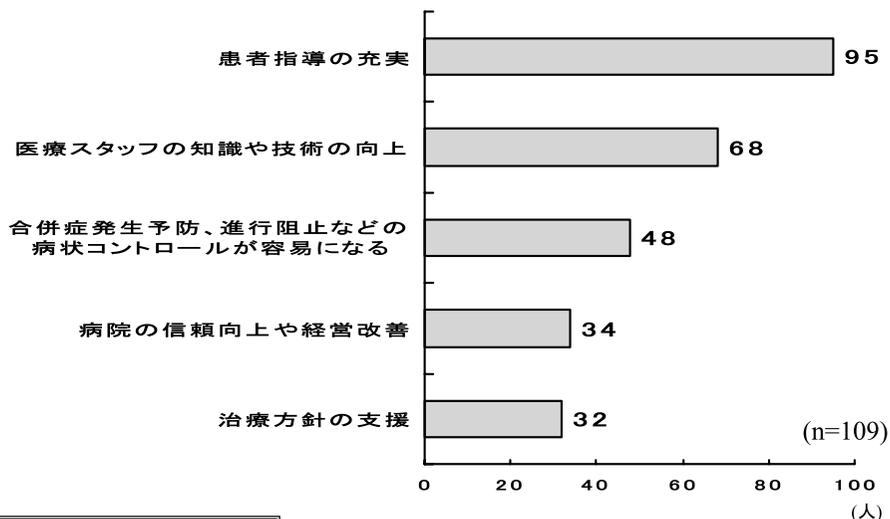
### 特に指導していない



回答状況(コメディカル)

問: 今までの糖尿病患者への指導はどのようにされて  
いましたか。(複数回答)

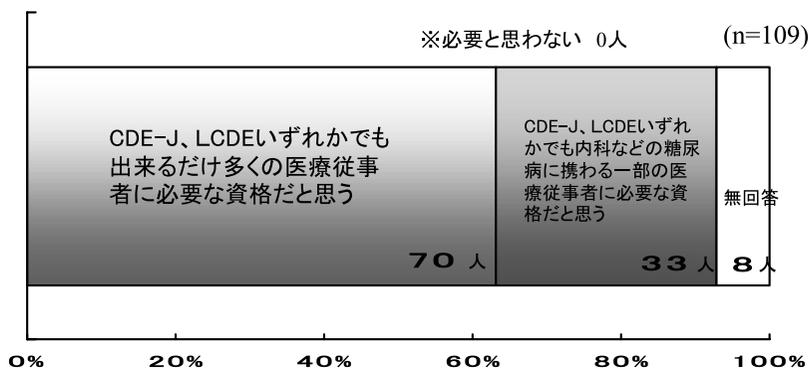
図7



回答状況(コメディカル)

問：CDE-Jの活用はどのような利益があると思いますか？（複数回答）

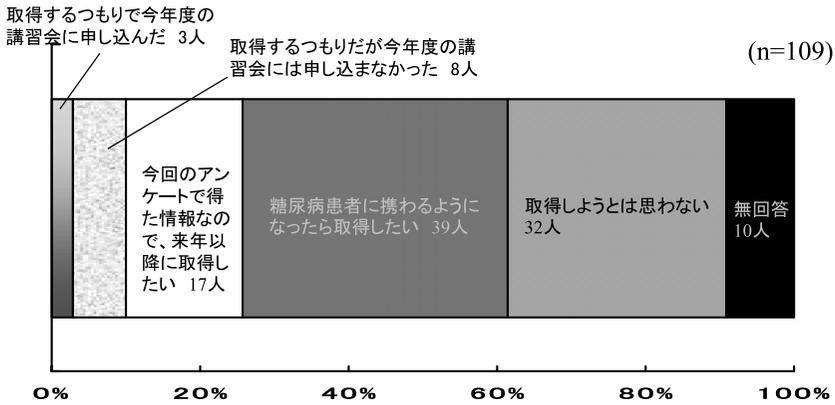
図8



回答状況(コメディカル)

問：CDE-J、LCDE（新潟県地域糖尿病療養指導士：Local Certified Diabetes Educator）いずれも魚沼病院の医療従事者に受験資格がありますが資格者を増やしていく必要があると思いますか？

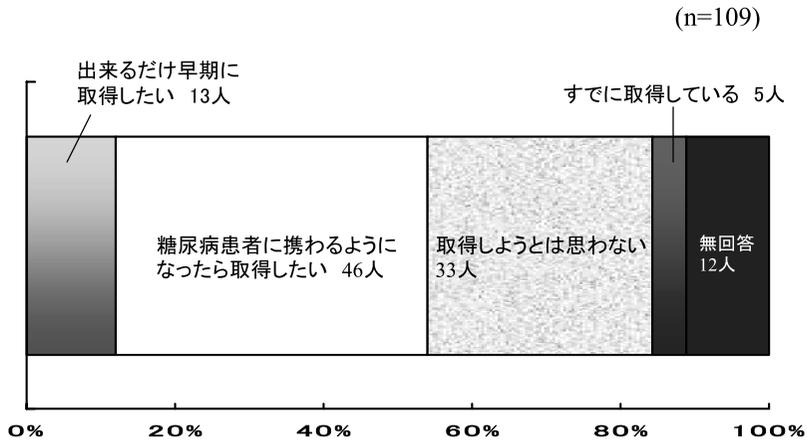
図9



回答状況(コメディカル)

問: LCDEの資格を取得したいと思いますか?  
 (受験資格の一部である“受験資格認定の為の講習会”に参加する必要があります。)

図10



回答状況(コメディカル)

問: CDE-Jの資格を取得したいと思いますか?

図11